

# 日本再生

第555号

2025年8月1日発行

発行人 戸田政康 編集人 石津美知子  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-3-16  
サンライン第14ビル6階 TEL 03-5215-1330 FAX 03-5215-1333  
発行所 〒207-0014 東京都東大和市南街 2-17-16 パピルス会館  
TEL 042-566-2950 FAX 042-566-2949  
振込口座 郵便振替 00160-9-77459 ゆうちょ銀行 019店 当座 0077459  
「がんばろう、日本！」国民協議会  
1部 300円 定期購読 年間 3500円

「がんばろう、日本！」国民協議会 機関紙

3-4面 コラム「一灯照隅」

5-12面 関西政経セミナー「民主主義のイノベーション」吉弘憲介・桃山学院大学教授／福山哲郎・参院議員

## 民主主義のための闘争 民主主義との闘争 民主主義からの逃走

### 持続可能な民主主義か 利那的ポピュリズムか ～日本政治・日本社会の分岐点

参議院選挙では自民、公明が大幅に議席を減らし、衆議院に続いて参議院でも与党が過半数を割ることになった。少数派政権、新興政党の台頭や分極化など、不安定化の度合いを増す政治状況のなか、日本の政治や社会は大きな分岐点を迎えている。

永田町界隈は石破政権をめぐる政局にうつつを抜かしているが、これではますます民意から見捨てられるだけだ。7月23-24日に開催された全国知事会は、選挙で示された民意を次のように説いている。

「排他主義、排外主義を否定し、多文化共生社会を目指す我々47人の知事がこの場に集い、対話の中で日本の未来を拓くに相応しい舞台となった。

いま、混沌とした国内外の情勢の中、参議院選挙で示された民意を国はしっかり受け止めるべきである。国民は、単に物価高に対する不満があっただけではなく、国政が、その場しのぎの対症療法的な議論にとどまらず、将来に向けての長期ビジョンに基づいた真の政策論議を望んでいる」(全国知事会 青森宣言)。

全国知事会長の村井嘉浩・宮城県知事は会議後の記者会見で、消費減税や給付金交付に関する与野党の論争を例に、

「右往左往していると国民の目には映ったと思う。場当たりの、その場しのぎの施策でごまかしている形に見えてしまったのではないか。そこは根本的に改めない」と国民の支持は得られないという思いで厳しい書き方をした」と語った(朝日デジタル 7/24)。

「政治を変えてほしい」という有権者の期待に政党、政治家はどう応えるのか。

「政党の支持基盤が流動化し、有権者の関心は短期的争点に集中しがちになる。環境問題や人口減少など中長期で取り組むべき課題が議論されず、ますます大きな課題として積み上がる悪循環に陥るのではないか。

分極化は民意の帰結として受け入れるしかない。大切なのは、与えられた条件下で政治家がいかに有権者の利益や「公共善」を生み出せるかだ。党利党略を乗り越え、国民のための政治をどう実現するかが政治家に求められている」(吉田徹・同志社大学教授 朝日 7/25)。

また現在は、自由貿易や法の支配などの価値に支えられた国際秩序が大きく揺らぎ、その担い手と目されてきた先進諸国においても、民主政治の基礎となるべき政党政治システムが融解しつつある歴史的な転換期にある。戦前日本のポピュリズムは、戦間期(国際秩序の動揺期)に政党政治が「党利党略」と忌避され、

政治不信・既成政党批判から「新体制」を望む「民意」が作られていった。その意味でも日本政治・日本社会は歴史的な分岐点にある。

「怖いのは、既存の政党が、参政党の主張に引きずられてしまうことです。今回の参院選でも、『日本人ファースト』に対抗するために、各党が『外国人問題』に触れざるをえなくなった。参政党が、自民党の保守勢力などに対し、議席以上の影響力をもつことで、政治全体がずると『参政党的なもの』に引きずられてしまう恐れがあります。その意味でも、民主主義にとって非常に危険な状態だと思います」(山崎望・中央大学教授 7/23 朝日デジタル)。

「私の観察では、穏健保守という固まりが崩れた時に、その国の民主主義がおかしくなります。穏健保守は色々な支持層を抱え、エリートもローワーミドルも票田にして、異なる利害を調整するものです。し



パレスチナに国際法を

かし、人々が排斥を主張する極右や急進右派の政党に引き寄せられることで、その票欲しさに穏健保守自体がそちらにすり寄り、イデオロギー化して多元的な政治を掘り崩す結果、国全体が変質してしまう。

——日本でも起こりえますか。

とがった主張をする政党などが、ぎりぎり穏健保守にとどまっている自民党より右寄りの政策を打ち出し、支持を集めています。私は自民党がそうした人々の支持を得ようと、右側に引っ張られていく可能性はあると危惧しています。今はまさに分岐点だと思います」（遠藤乾・東京大学教授 7/16 朝日デジタル）。

伊藤昌亮・成蹊大学教授は財務省解体デモについて「労働者として団結できず、ライフハックも器用に使いこなせない。言わば『中流貧民』の怒りの発露です。自己責任の下で自らを守れず、国に守ってもらうしかない、大きな政府を求めるのでしょうか」としつつ、「自分が助けられることばかり考えて相互性の感覚が薄れ、社会の収支計算をしないポピュリズムが広がっています」と憂える。

「むき出しの庶民感情を集約するだけなら、人口知能（AI）で済む。その言葉を翻訳する『世論の格上げ』が必要なのに、今の政治家はAI化しています」「ある意見の背後にどんな心情や境遇があって、そこを解決するにはどんな政策が必要かを考えるのが本来の政治家のはず。『財務省は税金を取らずに自分たちは助ける』『外国人より自分たちに金をよこせ』といった声に、単純に応えてみせるだけの政党はあまりに無責任です」（毎日夕 7/17）。

「むき出しの庶民感情」を煽るような形で、台風目のようになった参政党。その最終演説会場での一コマを、東京新聞が次のように報じている（7/24）。

参政党に抗議する人々に支持者から「どうせバイト」とあざ笑う声も聞かれるなか、一人の若い男性が足を止める。川口市在住で「外国人が多くて怖い」「良い外国人は住んでもいいけど、悪い人は困る」と。抗議していたAさんは必死に訴える。「怖い気持ちは誰にでもある。でも外国人や障害者、弱い立場の人はもっと怖いのでは」「犯罪を取り締まるのは、外国人とか日本人とか関係ないですよ」。

2人が話していると、周囲に20人ほどの参政党支持者らが集まってきた。誰ひとり、やじを飛ばしたり罵倒したりせず真剣に聞き入っていた。議論が一段落すると、Aさんは周囲の人たちに語りかけた。「皆さんと意見が違うのは分かる。だからといって、『バイト』とか言わないでください。皆さんも日本のためにと真面目に思っていて、ここに来たんですよ？ それは私たちも同じです」。

最初に立ち止まった男性の「抗議してる人って『やばいやつ』なのかなって思ってたけど、違う意見も分かって良かったです」という言葉に、周囲からは拍手が起きた。

「むき出しの庶民感情」を煽り、不安や憎悪を党勢拡大に利用する一民主主義との闘争——に抗し、対話や相互性の感覚に根差して合意形成を積み重ねる一民主主義のための闘争——を！

## 民主主義のための闘争 民主主義との闘争 民主主義からの逃走

参院選の投票率は58.51パーセントで、昨年総選挙の53.85パーセント、三年前の参院選の52.05パーセントを上回った。参院選の投票率が58パーセントを超えるのは、第一次安倍政権で「消えた年金」などで自民党が大敗した2007年以来、18年ぶりとなる。

事前の世論調査で「必ず行く」が若い世代で増えていることから考えると、若い世代が投票率を押し上げている可能性が考えられる（例：岡山、香川では10代の投票率が前回とくらべて10ポイント以上上昇 RSK 山陽放送）。出口調査からは、その若い世代で自民党が大きく支持を減らし、国民民主党、参政党が支持を伸ばしていることが分かる。

安倍一強時代には政治に無関心だった層のなかで芽生えた「政治を変えてほしい」という感情が、SNSやネットメディアの普及と相まって顕在化したと言えるだろう。ある意味では「政治に対する期待」とも言えるものであり、これを政治不信・政党不信（翼賛体制の燃料！）に変えてしまうのか、それとも主権者としての責任の民主化への一歩にできるか。「ある意見の背後にどんな心情や境遇があって、そこを解決するにはどんな政策が必要かを

考える」（伊藤昌亮・成蹊大学教授）という政治の本来の役割が問われる。

例えば、民放の開票特番に参加した元乃木坂46でタレントの山崎怜奈さんのコメント。政治家の役割について「デマや不安を煽ることが本来の務めじゃない」と主張したうえで、「参政党を支持している人のなかで、不安を持っている人っていうのは事実いるので。そういった不安とか社会の歪みっていうのを、どう現実的に具体的に有機的な議論で進めていくのか、つなげていくのかっていうのを今後慎重に監視していきたいなと思います」。

「去年の（東京都知事）選挙とかも含めて、かなり政治に対するものが信心深くなっているというか。推し活みたいになっちゃっている空気感があって。政治って我々は選挙の時に選んで、それを監視していくもの、見続けていくものだと思うので、“信じるものではないのでは”っていう風に思いますね」。

山崎望・中央大学教授は次のように提起する。

「神谷発言を批判するなら、その構想全体の実効性を問うべきです。『女性が結婚して家庭に入れば、出産する人は増える』と考えているようですが、共働き家庭と専業主婦の家庭を比較すると、共働きのほうが子どもが多いという研究があります。神谷氏の主張は誤った前提に立っていて、社会構想として現実性がないと批判したほうが、議論がかみ合うものになったのではないのでしょうか」

——こうした主張を掲げた参政党が選挙によって選ばれるとすれば、社会はどう向き合っていけばいいのでしょうか。

「民主主義の手続きだけで、参政党的なものをすべて排除するのは難しいでしょう。とはいえ、現在の日本の政治は、自由民主主義に基づいています。民主主義によって参政党が選ばれたとしても、自由主義の観点から批判することは可能です。『参政党的なもの』は、人権の軽視という自由主義に反する主張を含んでいるからです」

「また、民主主義の手続きによって選ばれたとしても、それは一度の選挙の結果でしかありません。選挙の期間外でも、議論を通じて『参政党的なもの』を変え

いかなとは思いますが。

## 戸田

少数派政権になって議会で与野党が議論するというのはどういうことか、というイメージが有権者の一部にも出てきたので、都議選ではそのリアル感がある議員が演説すると、聞いている部分との共有感のようなものが醸し出される場面がでてきた。そのことと減税ポピュリズム、財政に関わる問題が同じ時期に絡んできている。それから安倍政治の10年間あるいは新自由主義からの脱却ということが、聞いている方もつながるようになってきた。そこは変わってきている。こういう集積は個人ではできないので。

そこから比べてみると「ネットで話題の〇〇とは違う」ということも、見えて来るようになる。

## 福山

お言葉を返す気はないんですが、ファン層が違うんですね。

都知事選挙の時にこう申し上げたんです。小池さんを応援している人、石丸さんを応援している人、蓮舫さんを応援している人、同じ選挙なんだけれど、それぞれプロレスと相撲とボクシングをやっていた。プロレスファンも相撲ファンもボクシングファンも、みんなすごい盛り上がった。蓮舫さんの選挙、私も何回も行きましたがすごかった、「これで負けるのか」と思いました。

でも同じように、石丸さんにも小池さんにも集まっていたわけです。その中で戸田代表が言われたように、みんなが判断するような共有したプラットフォームがあるのならいいのですが、それがまったくないままネットの中でそれぞれ自己完結して動いている。そこがすごく難しい時代だなと思いますね。

リアルな空間で駅前でも演説しても100人だけど、ネットでバズったら50万とかになるわけです。こういうなかで選挙のやり方をどうしたらいいのか。非常に悩ましい時代が来たなと思います。

## 戸田

日本ではフォロワーが、自分らがやっぱり主権者なんだというある程度の責任の重みを意識しながら、民主党政権がや

ろうとしたことを当時は理解しなかったとか、こういうことも伴いながら集積していく、遅々として。それがようやく点として見えてきた、というところから線として見えるようになるか、そのふんばりどころでもある。

(6月30日。タイトル、小見出しとも文責は編集部。発言の一部は割愛しました。)

\*\*\*\*\*

## 2ページから続く

ていくことは不可能ではないでしょう。デモやパブリックコメント、恒常的な与野党への陳情、マスメディアによるフォーラム開催など、さまざまな場での議論を通じて民主主義の力を行使することはできるのです」(7/23 朝日デジタル)。

7月25日の「#石破辞めるな」デモ。発起人は「信条や真理は問いません。皆さんそれぞれリスペクトを持ってください。ここにはいろいろな思いを持っての方がいらっしゃいます。ただし、差別主義者はお断りします」と呼びかけた。参加者からは石破首相について「近年の自民党には稀(まれ)な『言葉が通じる』政治家」「国会論戦で野党とまともに議論ができる」との声が。

自己責任論の蔓延で相互性の感覚が薄れ、SNSのような一方的な関係性で対話の空間が失われるなか、政治への期待が「信者」へとすり替えられるのか。意見や立場の違いを認め合ったうえで、対話や議論を通じて「公共善」への合意形成を積み上げていくことができるか。民主主義のための闘争の新たなステージが始まる。一人ひとりでは微力でも、民主主義のためにたたかっているのか、民主主義と闘っているのか(トランプのように!)、あるいは民主主義から逃走しているのか、実践的にも検証される。■

### □日程のお知らせ□

- ◆東京「日本再生」読者会(会費 無料)  
8月10日(日) 10:00より  
「がんばろう、日本!」国民協議会  
市ヶ谷事務所
- ◆川崎「日本再生」読者会(会費 無料)  
8月10日(日) 19:30より  
オンライン
- ◆京都・大阪合同読者会(会費 無料)  
8月5日(火) 20:00より  
オンライン
- ◆埼玉「日本再生」読者会  
8月19日(火) 19:00より  
カフェ・ガヤ Chill(白川事務所下)  
+ オンライン

- 第21回総会【会員限定】  
8月17日(日) 13:00から  
「がんばろう、日本!」国民協議会  
市ヶ谷事務所 + オンライン  
テーマ: 都議選、参院選の教訓、  
経験の交流と、総括視点の共有

■問い合わせ 03-5215-1330